

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0970800413		
法人名	医療法人社団 星野会		
事業所名	認知症高齢者グループホームまゆ		
所在地	栃木県小山市犬塚88番1 (電話) 0285-25-8217		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年6月25日	評価確定日	平成20年7月16日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、30年来、当地で地域医療に取り組んできた医療法人が経営母体となっている。広大な敷地内には協力医療機関であるクリニック・歯科医院、老人保健施設・関係社会福祉法人の知的障害者授産施設があり、協力医療機関の医師には24時間対応してもらえるようになっており、また併設の老人保健施設などのバックアップ体制も充実している。夜間の想定も含めた避難訓練や併設施設との合同訓練、防災会議や消防設備の点検を定期的実施しており、安全・安心の意識の高さがうかがえる。運営者は「職員は宝」と考えており、職員の人材育成・研修に力を注ぎ、週1回、内部研修として全員参加の現任研修を実施するなど、より質の高いサービスの向上を目指して研鑽を重ねている。

【情報提供票より】(平成20年5月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年3月31日, 平成12年12月1日, 平成15年2月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	7 人	常勤5人, 非常勤2人, 常勤換算6.7人	
	5 人	常勤3人, 非常勤2人, 常勤換算4.5人	
	7 人	常勤5人, 非常勤2人, 常勤換算7.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,260円×日数	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費—500円/日</li> <li>・用度品賃借料—500円/日(持込の場合無料)</li> <li>・諸経費—320円/日</li> <li>・理美容代—1,000円~2,000円(種類により)</li> <li>・おむつ代—40円~170円(種類により)</li> </ul>	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,380 円		

(4) 利用者の概要(平成20年5月26日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	13 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	2 名		
年齢	平均 86 歳	最低	71 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	星野病院, 暁クリニック, 星野歯科医院
---------	----------------------

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果については、運営推進会議や家族会で報告し、改善できるものから取り組んでいる。前回の外部評価を踏まえて、職員の異動の際のお知らせとして「お便り」を発行するなど具体的な取り組みにつなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は全職員に配布のうえ、話し合いを行い、管理者がまとめる形で実施した。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は家族・入居者・地域住民・民生委員・地域包括支援センター職員を中心として2か月に1度開催し、ホームの活動状況を報告し、委員から意見や助言をもらって運営に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用料の支払いが現金払いのため、家族等が月1回必ずホームに訪れる機会があり、その折に個別の健康状態やホームでの暮らしぶりを伝え、預かり金の出納状況を確認してもらっている。職員の異動があった際は「お便り」で知らせている。家族の訪問時や家族会等で意見や苦情について積極的に意見交換している。また玄関に苦情記入用紙を用意し、苦情箱も設置されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入していないが、自治会の催し(桜祭り、運動会など)に参加するなど交流を図っている。ホーム行事の「納涼祭」には、チラシやポスターなどを作成して近隣の地域住民に対して参加の呼びかけを行い交流を図っている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として「利用者が主体である」「『生活』プランを立てる」「自発性を引き出す」「自立性を引き出す」を掲げ、重要事項説明書に明記している。また毎月の目標を定め、理念の実現を図るための実践に向けて取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で、また毎日の申し送りや月1回の全体会議等で理念について確認し合い、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、自治会の行事（桜祭り・運動会）に参加するなど交流を図っている。ホーム行事である「納涼祭」には、チラシやポスターなどを作成して近隣の地域住民に対して参加の呼びかけを行い交流を図っている。	○	地域の自治会の行事に参加して地域との関係づくりを図っているという現状であり、今後も自治会への加入検討やイベント等への積極的な参加など交流を更に深めていくことを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果については、運営推進会議や家族会で報告し、改善できるものから取り組んでいる。前回の外部評価を踏まえて、職員の異動の際のお知らせとして「お便り」を発行するなど具体的な取り組みにつなげている。今回の自己評価は全職員に配布のうえ、話し合いを行い、管理者がまとめる形で実施した。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族・入居者・地域住民・民生委員・地域包括支援センター職員を中心として2か月に1度開催し、ホームの活動状況を報告し、委員から意見や助言をもらって運営に活かしている。	○	地域の理解や支援を更に得られるようになるための機会として、例えば今後連携していきたいと考える機関に会議への参加を呼びかけるなど運営推進会議を更に活かしていくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設以来、市との連携が図られており、市担当者からアドバイスを得てサービス向上に活かしている。また、市の新人職員の研修も積極的に受け入れている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いが現金払いのため、家族等が月1回必ずホームに訪れる機会があり、その折に個別の健康状態やホームでの暮らしぶりを伝え、預かり金の出納状況を確認してもらっている。職員の異動があった際は「お便り」で知らせている。	○	職員の異動の際のお知らせとして「お便り」を発行しているが、ホームの日常の様子やホームの考え方などを伝える手段として「ホーム便り」として定期的に発行できるような検討を試みることに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会等で意見や苦情について積極的に意見交換している。また玄関に苦情記入用紙を用意し、苦情箱も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者・管理者は「職員の異動については最小限に」という考えを共有しており、本年度は退職が1名あったものの職員の交代は少ない。また、職員はそれぞれ担当のユニットはあるが、3つのユニット全体のこと分かるように申し送りや会議の持ち方などに工夫をしており、事業所全体としての馴染みの関係づくりに配慮している。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は人材育成に力を入れており、内部研修として現任研修を月4回開催し、すべての職員が参加している。また月1回の全体会議の場で法人の医師が講師となって医療面の研修などを実施している。外部研修については、職員の経験年数や業務上必要な内容などを勘案して計画的に受講している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互訪問を実施しており、意見交換などの交流を図っている。また近隣のホームとの交流もあり、職員同士での交流を図りながらサービスの質の向上に役立っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の見学時に分かりやすく説明をし、相談に応じながら、時には食事等をしてもらったりと本人が納得しての入居につながるように配慮している。入居間もない時期には入居前の状況を参考にしながら、入居者に不安を与えないよう、また徐々に慣れるよう配慮して支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることを的確に把握しながら職員と一緒にいることで、お互いが支え合う関係をつくることを大切に支援している。職員は郷土料理や季節の風習等についても入居者から教えてもらったりしている。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の入居者との関わりの中で声をかけ、入居者一人ひとりの求めていることを把握している。希望等の意向の表出の困難な場合には家族の協力を得て意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者や計画作成担当者が本人や家族からアセスメントをしており、サービス担当者会議において職員の意見や看護師の助言を参考にして介護計画を作成している。また日々のケアの中で職員間での介護計画の共有が図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回カンファレンスを行い、定期的な見直しをしている。心身の機能の低下など入居者の状態に変化があった場合には、随時見直しをしている。見直しの際には、サービス担当者会議を開催している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の買い物、通院に家族が対応できない場合の職員の対応など、家族や入居者の要望にそった支援ができるよう努めている。また敷地内に法人のクリニックがあり、重度化・看取りにも対応できる体制ができている。		

認知症高齢者グループホームまゆ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しているが、敷地内に協力医療機関である法人のクリニックがあることもあって、かかりつけ医の変更を希望する方が多い。協力医療機関からは24時間協力や支援がもらえる体制になっている。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>「重度化した場合における指針」を定めており、実際に看取りを行ったこともある。特に看取りのあり方について職員間で方針の共有がなされている。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人ひとりのプライバシーを尊重し、日々の声かけや対応について職員間で統一を図りながら対応している。記録等、個人情報の取り扱いにも注意している。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れがあり、生活リハビリ・レクリエーション活動などのメニューも充実しているが、参加の無理強いはせず、参加しない入居者には思い通りの過ごし方を支援している。</p>		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みに配慮しながら、法人の管理栄養士が献立を作成し、ユニットごとに調理している。訪問日にも、食材を話題にした会話を交えながら楽しい時間を過ごしていた。職員も入居者と同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3ユニットのうち1つのユニットには檜の浴槽があり、他のユニットの入居者も檜の香りを楽しみながら入浴できるよう入浴の順番にも配慮している。週に2～3回は入浴できるようにしており、入りたくないという場合は無理せず、次の日に声をかけたりしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・後片付け、洗濯物干し、草花の手入れなどの役割や絵画・習字などのレクリエーション、編み物などの楽しみごとの支援をしている。また職員が同行して買い物に出掛けたり、図書館等に行ったりして気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、外食、図書館など日常的に外に出る機会をつくっている。また2か月に1回は行事的な外出の機会を設けている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。職員一人ひとりが入居者を見守りながら支援している。		

認知症高齢者グループホームまゆ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自で年2回の避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。また法人内の併設施設と合同で、総合防災訓練を定期的に行っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する老人保健施設の管理栄養士が栄養のバランスを考えながら献立を作成している。食事摂取量を確認しており、水分摂取については特に記録はしていないが十分摂取できるよう支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂は広く、訪問時にはテーブルに紫陽花が飾られていた。また3棟で共用して自由に使えるフリースペースもある。備品や調度品は家庭的なものを採用し、居心地の良い家庭的な雰囲気づくりを心がけている。音、光、換気等も適切に配慮されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの物が自由に持ち込まれており、それぞれの好みに合わせた居室づくりを入居者と相談しながら支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。